

果樹カメムシ類の発生と防除

令和8年8月

果樹カメムシ類の発生生態

果樹園への飛来は、大きく分けて2つ

- ①越冬世代が中心となる**前期**（5～7月）
- ②当年世代（その年に生まれた子世代）の新成虫が中心となる**後期**（8月以降）

春

夏

秋

冬

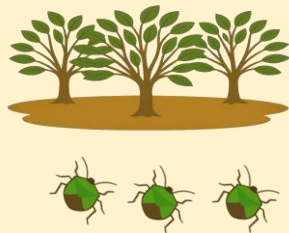
春

春の被害

果樹



サクラ・クワ等



春に越冬個体が活動開始
様々な植物を転々とし、加害

夏以降の被害

果樹



山の餌が枯渇したら
園地に飛来し加害

スギ・ヒノキ



繁殖

山のスギ・ヒノキの球果等を
餌に繁殖

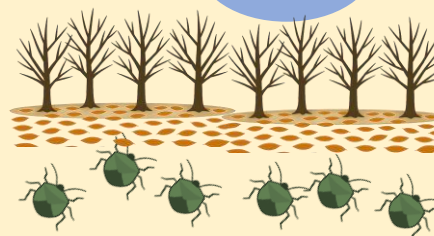
冬

果樹



広葉樹等

越冬



広葉樹の落ち葉下などで越冬

春に越冬個体が
園地に飛来し加害

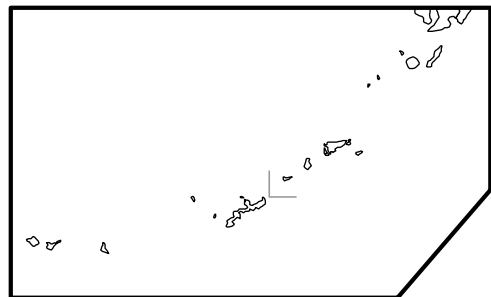
果樹カメムシ類の生活環（例：チャバネアオカメムシ）

令和8年の発生予察注意報の発表状況（7月末現在）

- 前期の果樹カメムシ類の多発が予測されたことから、33件（30府県）の発生予察注意報を発表し、注意喚起を実施（警報は0件）。

注意報発表都道府県（件数：33件（30府県））

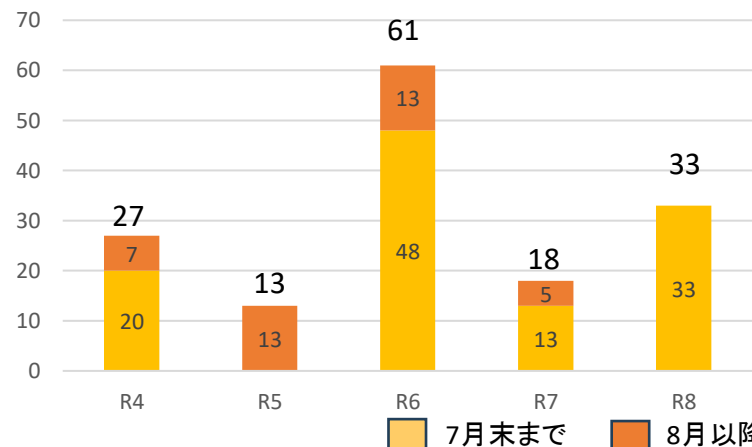
警報は発表件数は0件



提供元：Bing, Microsoft, Zenrin

発表月日	都道府県名	発表月日	都道府県名	発表月日	都道府県名
3月25日	佐賀県	5月21日	富山県	7月28日	群馬県（2）
4月23日	和歌山県	5月22日	大阪府		
4月30日	高知県	5月26日	鹿児島県		
〃	山口県	5月27日	千葉県		
5月12日	三重県	5月28日	広島県		
〃	長崎県	〃	岐阜県		
5月13日	熊本県	〃	群馬県		
〃	徳島県	6月1日	鳥取県		
5月14日	滋賀県	6月2日	愛知県		
〃	栃木県	6月11日	石川県		
5月15日	愛媛県	7月13日	佐賀県（2）		
5月18日	香川県	7月15日	滋賀県（2）		
5月19日	岡山県	〃	福岡県		
5月20日	兵庫県	〃	大分県		
〃	京都府	7月22日	島根県		
〃	奈良県	7月27日	宮崎県		

果樹カメムシ類警報・注意報発表回数の年次推移



種類	発表の頻度	内容
注意報	都道府県の判断により適宜発表	警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が 多発 することが予測され、かつ、 早めに防除措置を講じる必要が認められる場合 に発表
警報	都道府県の判断により適宜発表	重要な病害虫が 大発生 することが予測され、かつ、 早急に防除措置を講じる必要が認められる場合 に発表

果樹カメムシ類に対する産地の取組事例

3 果樹カメムシ類の各県の防除取組事例

- 多くの都道府県で研修会、チラシによる防除の普及啓発が行われているところ。また、生産部会を対象に研修会も開催されているところ。

主な取り組み事例

- 予察
 - ・越冬量調査による前期（5～7月）の発生予測やヒノキ球果の離脱式を用いた後期（8月以降）の飛来予測
- 広報
 - ・都道府県が発表する予報や注意報等による注意喚起を徹底
 - ・普及支援組織や生産部会等を対象とした研修会の開催（果樹カメムシ類の生態や防除対策等）
- 防除
 - ・JAと連携した現地巡回による防除指導
 - ・発生予察情報（発生予測）に基づく防除の判断
 - ・年間防除計画（各産地で令和6年の多発年を鑑みた防除暦）に基づく防除指導
 - ・2次摘果終了前後（5月下旬～6月上旬）の防除暦の変更、普及で設置するフェロモントラップ調査で注意喚起
 - ・薬剤防除の徹底と発生に応じた特別防除の実施

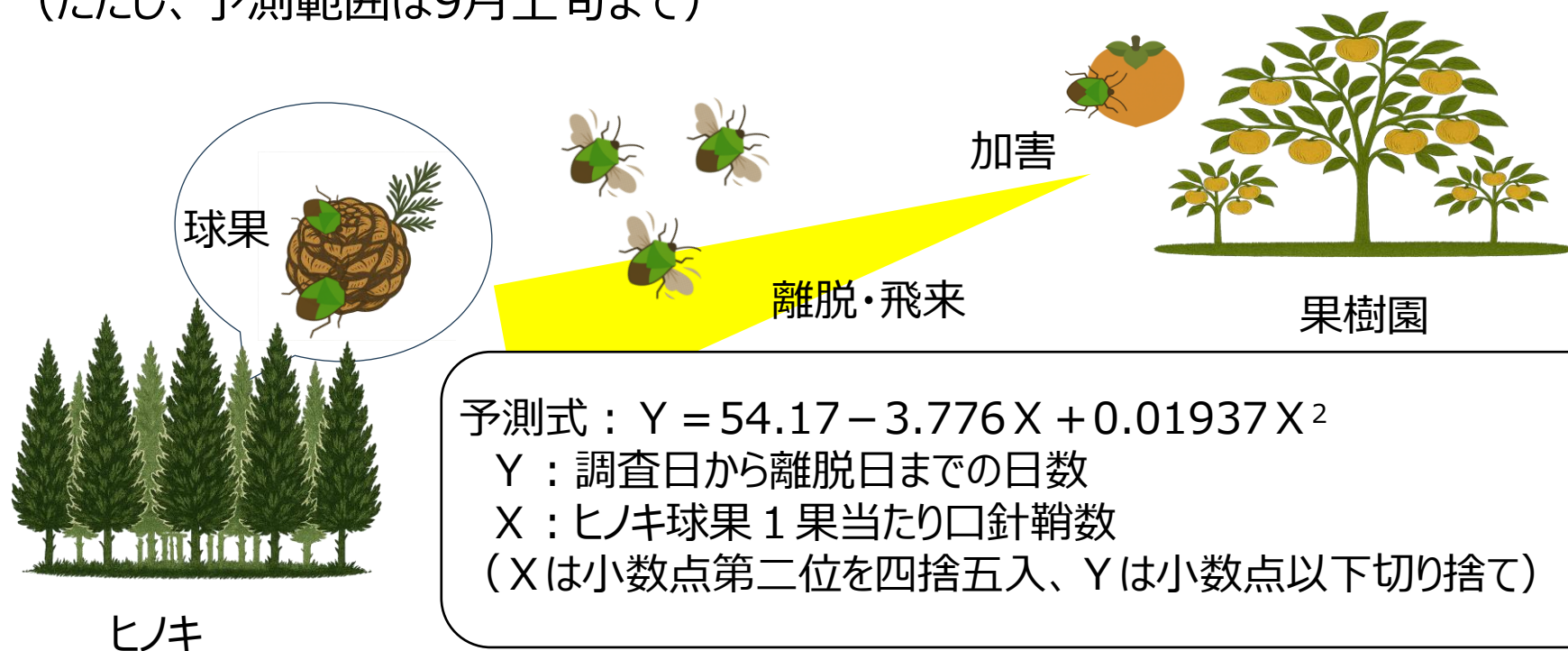
参考：後期（8月以降）の果樹カメムシ類の園地への飛来予測

ヒノキ球果上の口針鞘数による果樹カメムシ類の離脱時期の予測法
(福岡県農業総合試験場が開発)

- ・口針鞘を指標として**球果の餌としての消耗度**を評価
- ・成虫がヒノキを離脱して果樹園へ飛来する時の口針鞘数の閾値に達するまでの日数を推定

→ 口針鞘が**25本/球果以上**になると、成虫がヒノキを離脱し果樹園に飛来

7月下旬の口針鞘数から果樹カメムシ類の離脱時期の大まかな予測が可能
(ただし、予測範囲は9月上旬まで)



- 1 早期発見を促す取組：越冬量調査に基づく早期防除の呼びかけ

愛知県：JAあいち豊田（品目：桃、梨など）

背景・目的

- ・桃や梨など果樹栽培が盛んな豊田市猿投地区の3地点について、被害軽減を図るために越冬量調査を開始。

取組内容

- ・愛知県病害虫防除室・普及担当職員とJAで連携して、落ち葉や腐葉土を採取し、チャバネアオカメムシの越冬量調査を実施。

取組開始時期

- ・2021年から

生産者や関係者への情報発信

- ・3月下旬に取りまとめられた調査結果を発信し、防除対策の徹底を呼びかけ



越冬量調査の様子



採取した落ち葉を保管してる様子

- 2 : 産地と普及センターが連携したフェロモントラップ調査と発生状況の見える化

宮城県：JA新みやぎ北浦梨部会（品目：梨）

背景・目的

- 産地内の果樹カメムシ類の発生状況を早期に把握し、防除判断に活用することを目的に調査を開始。
- 果樹カメムシ類は園地間で発生差が大きい、地域内での発生状況の「見える化」も実施。

取組内容

- JA新みやぎ北浦梨部会と宮城県美里農業改良普及センターが連携して調査体制を構築。
- 美里町内の3地区にフェロモントラップを設置し、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシを対象に調査。
- 5～10月まで約10日間隔で誘殺数を調査し、地区ごとの発生差を把握。

取組開始時期

- 2026年から

生産者や関係者への情報発信

- 「なし生育情報」に調査結果を掲載し、JA新みやぎ北浦梨部会員に情報提供。
- LINE WORKSを活用し、生育情報やトラップ結果の迅速な共有を試行的に実施。
- 園地見回りと組み合わせた適期防除の呼びかけ。

<https://ameblo.jp/miyagifukyu/entry-12968191183.html>

調査の結果（5/29時点）

摘果作業の時期となっていますが、すでに果樹カメムシ類が飛来している地域もあります。摘果作業中に園地の見回りを実施し、多発する場合は防除のタイミングを意図するなどを検討しましょう。

【チャバネアオカメムシ】（頭）

調査日	誘殺	横坪	彫堂
5月 10日	0	0	0
20日	1	0	16
30日	0	0	11

【クサギカメムシ】（頭）

調査日	誘殺	横坪	彫堂
5月 10日	0	0	0
20日	0	0	0
30日	0	0	0

【ツヤアオカメムシ】（頭）

調査日	誘殺	横坪	彫堂
5月 10日	0	1	0
20日	0	0	0
30日	0	0	0

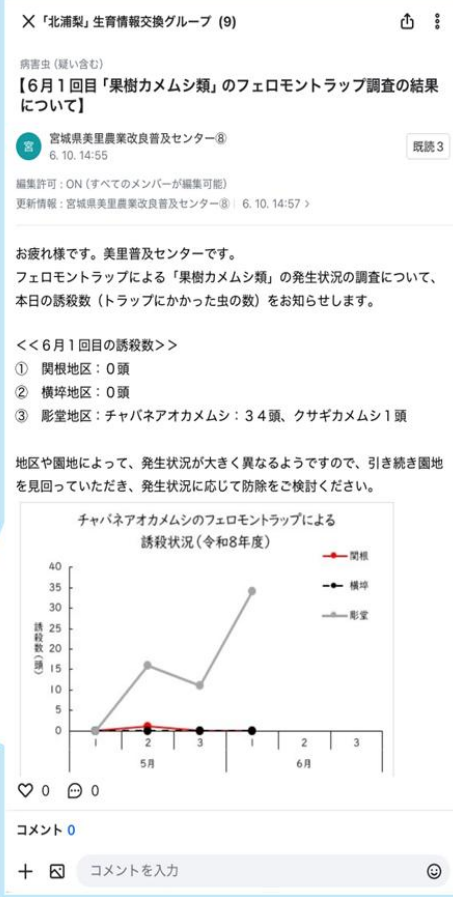
表1～3 果樹カメムシ類フェロモントラップ調査結果

図1 果樹カメムシ類（宮城県病害虫防除所撮影）

図2 フェロモントラップ



フェロモントラップ設置の様子



- 3 地域の新たな取組 ①事業を活用した防除技術の検討

群馬県：吾妻地域（品目：りんご）

背景・目的

- ・観光果樹栽培が盛んな吾妻地域において、害虫（カメムシ）被害を軽減させるために、新たな取組を検討

取組内容

- ・化学合成農薬以外の防除技術として**防蛾灯を活用し**、チョウ目類の防蛾だけでなく、**チャバネアオカメムシの忌避効果**を狙い、総合的防除方法を検討する

取組開始時期

- ・2024年～2029年

生産者や関係者への情報発信

- ・チャバネアオカメムシトラップ調査結果を**LINEで周知**する（5～11月）
- ・吸汁被害警戒期（6～8月）に**ほ場巡回調査を実施**し、加害程度を周知する

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうち「グリーンな栽培体系への転換サポート（現在は「グリーンな栽培体系加速化事業）」を活用



防蛾灯点灯の様子



調査トラップ設置の様子



LINEを活用した適時情報通知・共有

-4 地域の新たな取組 ②病虫害発生予測AIを活用した発生予察

愛媛県：JAえひめ中央等（品目：かんきつ）

背景・目的

- 気候変動の影響による病虫害発生タイミングが変化していることを踏まえて、防除適期を逸さない、新たな予察技術の導入が必要

取組内容

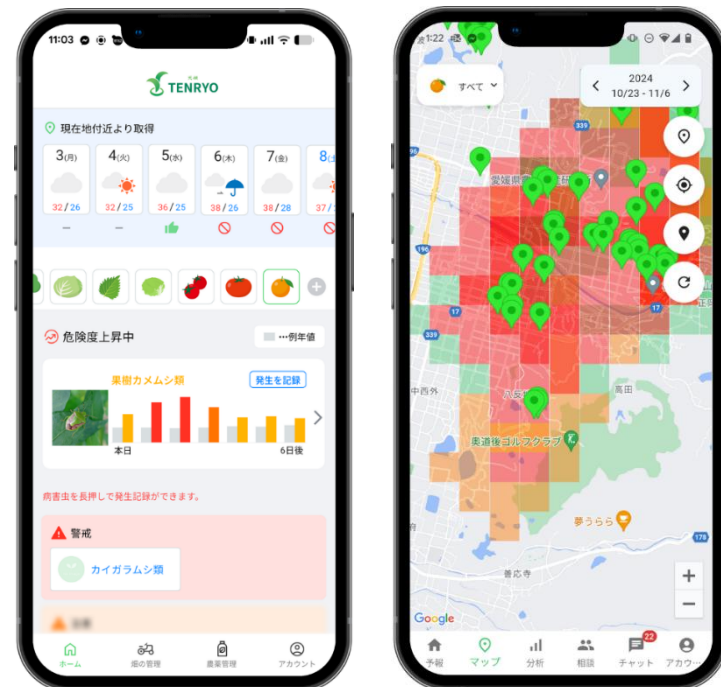
- 予報AIアプリ「TENRYO」**を活用した病虫害発生リスクの予測による**予防的防除対策の実証**

取組開始時期

- 2024年より

生産者や関係者への情報発信

- TENRYOは気象データと病虫害発生履歴をAIで解析し、発生リスクを地域メッシュ単位で事前に予報
- 生産者や営農指導員はアプリのアラートで**リスク上昇を把握し、事前の対策ができる**。既存の調査・予察情報を補完し、初期対策の徹底と多発時の追加散布の抑制につながる。



アプリ画面（左：発生記録 右：発生マップ）



TENRYOのアラートで発生状況を確認する生産者

TRY ANGLE EHIME (トライアングル エヒメ)

https://note.com/tryangle_ehime/n/ncb2b842f0447#cc2031c5-d881-4507-a3b3-dd322b9749d4

（株式会社ミライ菜園より）

果樹カメモシ類は飛来時期が隔年で大きく振れ、**勘と経験で対処しにくい害虫**です。しかし、集合フェロモンにより短期間で密度が高まるため、発生初期を見逃すと急速に被害が拡大します。実測に基づくトラップ調査は確実性が高い一方、捕獲から計数・情報提供までに数日から1週間程度を要するため、どうしても飛来が始まってから対策を組むことになりがちです。TENRYOは、発生リスクを事前に予測できることから防除適期を逃しません。